

プログラム

【会長講演】

10月27日（土） 14時10分～15時10分（第1会場 2F 大ホール）

座長：鳥羽 研二（国立長寿医療研究センター）

認知症の地域臨床研究

筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学 朝田 隆

【特別企画】

特別企画1「うつ病研究の最先端」

10月26日（金） 9時00分～12時00分（第3会場 3F 中ホール）

オーガナイザー：吉川 武男（独立行政法人理化学研究所 脳科学総合研究センター
分子精神科学研究チーム）

三國 雅彦（群馬大学大学院医学系研究科 神経精神医学）

1. うつ病の栄養学的研究
国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 疾病研究第三部 功刀 浩
2. うつ病と認知症の関連性
順天堂大学 大学院 精神・行動科学科 馬場 元
3. 死後脳研究によるうつ病の病態解明と創薬研究
公益財団法人 東京都医学総合研究所 統合失調症・うつ病プロジェクト うつ病研究室 楯林 義孝
4. エピジェネティクスからみたうつ病の病態・診断・治療
広島大学大学院 医歯薬保健学研究院 精神神経医科学 森信 繁

（概要）高齢者の精神・神経領域の疾患として最多は、認知症とうつ病であろう。若年者のうつ病が増加して社会的にも問題化しているが、高齢者のうつ病も認知症前駆状態としてその意義が再認識されている。このうつ病研究の最前線を解説する。

特別企画2「動画でみる認知症」

10月26日（金） 9時00分～12時00分（第4会場 2F 中ホール）

座長：齋藤 正彦（東京都立松沢病院）

山口 晴保（群馬大学大学院 保健学研究科リハビリテーション学講座）

1. 認知症をきたす神経変性疾患の神経症状と徴候
鳥取大学 医学部 保健学科 生体制御学 浦上 克哉
2. Klüver-Bucy 症候群
足利赤十字病院精神神経科 船山 道隆
3. レム睡眠行動異常症（REM sleep behavior disorder）
関西電力病院 神経内科・睡眠関連疾患センター 立花 直子
4. 前頭側頭葉変性症をみる
愛媛大学大学院医学系研究科 脳とこころの医学 谷向 知

(概要) 認知症のなかでも非アルツハイマー病性の変性疾患はそう多いものではない。それだけに有名な症候は術語として知ってはいても、現実には見たことがないという声も聞かれる。そこでこうした症候をご理解いただくべく動画を用いて解説する。

特別企画 3 「先達に聞く」

10月27日(土) 10時00分～12時00分(第1会場 2F 大ホール)

司会: 小阪 憲司(メディカルケアコートクリニック 院長)

井原 康夫(同志社大学 生命医科学部・生命医科学研究科)

医生命システム学科 神経病理学)

1. 昭和30,40年代のアルツハイマー型認知症脳の研究

医療法人 興生会 相模台病院 石井 毅

2. アルツハイマー病 —そのいくつかの謎—

国際医療福祉大学大学院 金澤 一郎

(概要) 先達: 認知症が今日ほど重視される時代はこれまでにはないだろう。この数十年間に、認知症領域の数少ない先達によるご努力で認知症学の基礎が作られてきた。そのような先達の経験談・お考えをお聴きすることは、認知症学を深める上で温故知新の機会になることだろう。

【教育講演】

教育講演 1 「診断アラカルト」

10月26日(金) 14時00分～16時00分(第3会場 3F 中ホール)

座長: 1. 松田 博史(国立精神・神経医療研究センター)

脳病態統合イメージングセンター)

2. 下濱 俊(札幌医科大学医学部 神経内科学講座)

3. 福山 秀直(京都大学大学院医学系研究科附属高次脳機能総合研究センター)

脳機能イメージング領域)

4. 横田 隆徳(東京医科歯科大学脳神経病態学分野)

5. 小阪 憲司(メディカルケアコートクリニック 院長)

1. 代表的な認知症疾患のMRI, SPECT 画像

奈良県立医科大学 医学部 精神医学講座 安野 史彦

2. てんかんの臨床からみた認知症との接点

京都大学 医学研究科 脳病態生理学講座 臨床神経学 池田 昭夫

3. 今日の標準的な神経心理評価

公益財団法人 脳血管研究所 杉下 守弘

4. 認知症の原因となりうる稀な神経疾患

山口大学 大学院 医学系研究科 神経内科学 神田 隆

5. DLB の失神およびRBD

秋田大学 大学院 医学系研究科 精神科学講座 清水 徹男

教育講演 2 「病因仮説再考」

10月26日(金) 14時00分～16時00分(第4会場 2F 中ホール)

座長: 1. 田平 武(順天堂大学大学院 認知症診断・予防・治療学講座)

2. 織茂 智之(関東中央病院神経内科)

3. 池田 学(熊本大学大学院生命科学研究部 神経精神医学)

4. 村山 繁雄(東京都健康長寿医療センター)

1. アルツハイマー病の病因仮説～アミロイドβ蛋白を中心に～

筑波大学 医学医療系 神経内科学 玉岡 晃

2. レビー小体型認知症における病変の拡大進展機構

弘前大学大学院 医学研究科 脳神経病理学講座 若林 孝一

3. BPSDの神経病理

香川大学 医学部 炎症病理学 池田 研二

4. TDP-43と関連疾患

東京都医学総合研究所 認知症高次脳機能分野 病態細胞生物研究室 長谷川成人

教育講演 3 「今さら聞けない認知症」

10月27日(土) 10時00分～12時00分(第4会場 2F 中ホール)

座長: 1. 吉川 武男(独立行政法人理化学研究所 脳科学総合研究センター

分子精神科学研究チーム)

2. 水上 勝義(筑波大学大学院人間総合科学研究科

健康スポーツシステムマネジメント専攻 ストレスマネジメント領域)

3. 田平 武(順天堂大学大学院 認知症診断・予防・治療学講座)

4. 秋山 治彦(公益財団法人東京都医学総合研究所

認知症・高次脳機能研究分野 認知症プロジェクト)

1. 遺伝学の基礎知識

筑波大学医学医療系遺伝医学分野 有波 忠雄

2. 前頭側頭葉変性症

筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学 新井 哲明

3. アルツハイマー病の免疫療法

佐賀大学 医学部 神経内科 原 英夫

4. iPS細胞作製技術を用いた認知症研究

京都大学 iPS細胞研究所 井上 治久

【シンポジウム】

シンポジウム 1 「血管性認知症の最先端」

10月26日(金) 9時00分～12時00分(第1会場 2F 大ホール)

オーガナイザー: 富本 秀和(三重大学大学院医学系研究科神経病態内科学)

長田 乾(秋田県立脳血管研究センター 神経内科学研究部)

1. 血管性認知症のオーバービュー;疫学的立場から

九州大学 医学研究院 環境医学分野 清原 裕

2. CARASILの分子病態機序

新潟大学 脳研究所 分子神経疾患資源解析 小野寺 理

3. アルツハイマー病の血管因子

名古屋市立大学 大学院医学研究科 病態生化学 道川 誠

4. 混合型認知症の Neuroimaging

三重大学大学院医学研究科生命医科学専攻 神経感覚医学講座神経病態内科学分野 伊井裕一郎

5. 血管性認知症と Alzheimer 病理

公益財団法人先端医療振興財団 先端医療センター 再生医療研究部 猪原 匡史

(概要) 血管性認知症は、アルツハイマー病とともに最多の認知症性疾患である。その診断は、NINDS-AIREN や DSM-IV などの診断基準に基づいてなされるが、その感度および特異度ともに十分ではない。背景として、病態機序の解明が不十分であること以外に、バイオマーカーなどの客観的指標が乏しいことや、アルツハイマー病等の他の変性性認知症との重なりが大きいことなどが挙げられる。本シンポジウムでは、混合型認知症や血管性認知障害 (Vascular cognitive impairment; VCI) に焦点をあて、血管性認知症の診断および病態機序について議論する。

シンポジウム 2 「アルツハイマー病の早期診断・治療のためのガイドラインに向けて：prodromal AD, pre-MCI」

10月26日(金) 9時00分～12時00分 (第2会場 1F 大会議室 101+102)

オーガナイザー：中島 健二 (鳥取大学医学部医学科脳神経医科学講座

脳神経内科学分野)

東海林幹夫 (弘前大学大学院医学研究科 脳神経内科学講座)

1. アルツハイマー病の新しい診断ガイドライン：概念と用語について

東京大学 医学部 神経病理学 岩坪 威

2. アルツハイマー病の早期診断における神経心理検査の役割と臨床診断基準

大阪大学大学院医学系研究科 精神医学分野 数井 裕光

3. 画像 (PiB-PET, MRI など)

大阪市立大学 医学部 老年科・神経内科 嶋田 裕之

4. 遺伝子とバイオマーカー

新潟大学 脳研究所 遺伝子機能解析学分野 桑野 良三

5. 生化学的、病理学的バックグラウンド

弘前大学大学院医学研究科脳神経内科学講座 松原 悦朗

6. 新しい基準を実地臨床でどう生かすか？—地域研究、認知症治療ガイドラインの立場から

鳥取大学 医学部 脳神経医科学講座 脳神経内科学分野 和田 健二

(概要) 近年、アルツハイマー病 (AD) の基礎研究と薬剤開発の進歩に伴い、臨床症状が明らかになる前に AD を同定し、早期治療につなげようという動きが高まっている。米国では、最近 AD の診断基準が改定されたが、それには AD の前段階とされる MCI、さらには MCI 以前の preclinical stage の概念が取り入れられた。超早期の介入・予防の可能性が議論されるなか、我が国においても AD に対する早期臨床診断のあり方や先制医療の臨床評価法などが議論されている。本シンポジウムでは、AD の早期診断・臨床評価法のためのガイドライン作りを念頭に置き、今後の AD 治療の方向性について議論する。

シンポジウム 3 「アルツハイマー病の根本治療：臨床試験の現状と展望」

10月26日（金） 14時00分～16時00分（第1会場 2F 大ホール）

オーガナイザー：井原 康夫（同志社大学 生命医科学部・生命医科学研究科

医生命システム学科 神経病理学）

山田 正仁（金沢大学大学院医薬保健学総合研究科

脳老化・神経病態学（神経内科学）

1. 臨床開発の最前線（総論）

東京大学 医学部附属病院 分子脳病態科学、神経内科 岩田 淳

2. γ セクレターゼ阻害剤の治験からの学び

日本イーライリリー株式会社 医学科学本部、研究開発本部 並木 千尋

3. 臨床開発の課題と展望

ファイザー株式会社 クリニカル・リサーチ統括部 藤本 陽子

4. 新規メカニズムのアルツハイマー病治療薬への期待

同志社大学 脳科学研究科 神経疾患研究センター 杉本 八郎

（概要）昨年本邦においてアルツハイマー病（AD）の進行を遅らせる作用を有する薬剤が3剤発売されたことにより、治療の選択肢が増え、AD診療の幅が広がった。しかし、疾患の病理過程自体を止める根本治療につながる薬剤は未だ上市されるに至っていない。AD脳に凝集・蓄積し、神経細胞の変性に関与すると考えられるアミロイド β 蛋白とタウ蛋白およびそれらの関連分子や経路を標的とした薬剤開発が現在世界中で活発に行われている。それらの開発は現在どこまで進み、どの薬剤がより有望か？各分野のエキスパートの先生方に、新規薬剤開発の戦略および薬剤開発の進捗状況について解説していただく。

シンポジウム 4 「認知症・うつとシナプス異常」

10月26日（金） 14時00分～16時00分（第2会場 1F 大会議室 101+102）

オーガナイザー：永井 義隆（国立精神・神経医療研究センター 神経研究所

疾病研究第四部）

樋口 真人（放射線医学総合研究所 分子イメージング研究センター

分子神経イメージング研究グループ）

1. 細胞内 $A\beta$ オリゴマーによるシナプス障害と神経細胞死

大阪市立大学 大学院医学研究科 脳神経科学 富山 貴美

2. タウとシナプス可塑性について

国立長寿医療研究センター、分子基盤部 高島 明彦

3. 精神神経疾患におけるシナプスの分子イメージング

放射線医学総合研究所 分子イメージング研究センター分子神経イメージング研究グループ 樋口 真人

4. トリプトファン代謝と脳機能

旭川医科大学 教育研究推進センター 船越 洋

5. 気分障害とミトコンドリア機能障害

理化学研究所脳科学総合研究センター 加藤 忠史

(概要) 認知症においても、うつ病などの精神疾患においても、シナプス伝達やニューロン回路の障害が症状出現と密接に結びつくと考えられ、神経伝達を調整する薬剤が治療に用いられている。しかしながら、いかなる分子機構によってシナプスが障害され、ニューロン間の連絡網が破綻するのかが十分に解明されていない。シナプス病態において鍵となる分子の変化を同定できれば、治療標的として重要となりうるのみならず、ニューロン機能障害のバイオマーカー創出にもつながる。本シンポジウムでは、精神神経疾患の中でも急増する認知症とうつにおいて、症候の分子基盤となるシナプス伝達異常とニューロン回路障害について、最新の研究成果を交えて議論する。

シンポジウム 5 「J-ADNI: データの総決算」

10月27日(土) 10時00分~12時00分 (第2会場 1F 大会議室 101+102)

オーガナイザー: 岩坪 威 (東京大学大学院医学系研究科 脳神経医学専攻

基礎神経医学講座神経病理学)

杉下 守弘 (公益財団法人 脳血管研究所)

1. J-ADNI の総括

東京大学大学院医学系研究科 脳神経医学専攻基礎神経医学講座神経病理学 岩坪 威

2. 臨床コアからの報告

東北大学加齢医学研究所 加齢老年医学研究分野 荒井 啓行

3. 臨床コア (あるいは心理コア)

公益財団法人 脳血管研究所 杉下 守弘

4. MRI

国立精神・神経医療研究センター 脳病態統合イメージングセンター 松田 博史

5. PET

国立長寿医療研究センター 伊藤 健吾

(概要) アルツハイマー病 (AD) の基礎研究の成果に基づいて開発される disease-modifying therapy の臨床治験を成功させるためには、臨床症状、画像所見、バイオマーカーなどを併用した客観的な評価基準が必要である。米国で開始された AD Neuroimaging Initiative (ADNI) に呼応して 2008 年に本邦で開始された J-ADNI は、これまでにない規模でデータを集積し、さまざまな知見を明らかにしてきている。5 年目を迎える今年にはデータの総決算の年であり、最新の成果を基に今後の AD の診断および治療へ与える影響について議論する。

シンポジウム 6 「認知症とオミクス解析」

10月27日(土) 10時00分~12時00分 (第3会場 3F 中ホール)

オーガナイザー: 富田 泰輔 (東京大学大学院 薬学系研究科 臨床薬学教室)

鈴木 利治 (北海道大学大学院薬学研究院 神経科学研究室)

1. アルツハイマー病サロゲートマーカーの定量系の確立と診断への応用

独立行政法人 医薬基盤研究所 プロテオームリサーチプロジェクト 朝長 毅

2. 認知症ペプチドミクス

筑波大学 医学医療系 生命医科学域 内田 和彦

3. エーザイにおけるバイオマーカー研究

エーザイ株式会社 バイオマーカー アンド

パーソナライズトメディシン機能ユニット 小田 吉哉

4. メタボロミクスによる疾患バイオマーカーの探索

神戸大学大学院医学研究科消化器内科学分野 吉田 優

(概要) 革新的分析技術の開発により、プロテオミクス、リポドミクス、メタボロミクスなどの各種オミクス解析が急速に展開しつつある。特に疾患研究においては、これらオミクス解析成果の統合的理解とデータマイニングによる新たな疾患バイオマーカーやサロゲートマーカーの探索が精力的に進められている。本シンポジウムにおいてはこれらオミクス研究の最先端技術開発に携わる先生方にご講演頂き、認知症関連バイオマーカー探索への応用の可能性について議論を行いたい。

シンポジウム 7 「脳波ルネッサンス— DIMENSION と NAT (Neuronal Activity Topography) による新しい認知症の診断法—」

10月28日(日) 9時00分～12時00分 (第1会場 2F 大ホール)

座長：北村 伸 (日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科)

小杉 幸夫 (東京工業大学大学院総合理工学研究所)

1. DIMENSION 解析・NAT 解析とは何か？ 臨床家のための基礎知識
くどうちあき脳神経外科クリニック 工藤 千秋
2. NAT 解析によるアルツハイマー型認知症診断
株式会社脳機能研究所 武者 利光
3. 治療可能な認知症への応用【特発性正常圧水頭症】
大阪大学 大学院 医学系研究科 精神医学教室 青木 保典
4. NAT を用いた頸動脈狭窄症による軽度認知障害への応用
富山県済生会富山病院 脳卒中センター 脳神経外科 柴田 孝
5. 高齢期うつ病と認知症周辺症状のうつとの鑑別
くどうちあき脳神経外科クリニック 工藤 千秋
6. NAT 解析を用いた歯科治療効果について
鶴見大学 歯学部 有床義歯補綴学講座 米山 喜一
7. 川崎市におけるまちぐるみ認知症相談センターでの Dimension 解析の有用性
日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科 北村 伸
8. NAT 解析のための脳電位データベースの構築 ～利根町の有病率調査を中心として～
株式会社 脳機能研究所 田中美枝子
座長：長谷川和夫 (社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター)
武者 利光 (株式会社脳機能研究所)
9. パネルディスカッションと統括

(概要) NAT (Neuronal Activity Topography) とは、武者利光博士によって開発された頭皮上脳電位パワー (脳波の振幅の二乗) の相対的なゆらぎの大きさに着目した神経細胞活動の新たな解析方法である。先行研究では SPECT や PET との相互比較からこれらの技術に匹敵する有用性が示されている。この結果を画像化したりテンプレート表示することで様々な脳疾患の診断や機能評価への応用が期待される。このような NAT 技術の現状を紹介する。

シンポジウム 8 「認知症の介護：生活機能障害へのアプローチ」

10月28日（日） 10時00分～12時00分（第6会場 2F 201）

座長：石合 純夫（札幌医科大学 医学部 リハビリテーション医学講座）

山口 晴保（群馬大学大学院 保健学研究科リハビリテーション学講座）

1. 認知症の人の感情と行為を映像から読み解く

NHK エンタープライズ 事業本部 企画事業 横川 清司

2. 認知症ケア—食事に焦点を当てて—

医療法人財団青山会 介護老人保健施設なのはな苑 松浦美知代

3. 認知症のリハビリテーション—生活機能障害への個別アプローチの実例—

札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科 竹田 里江

4. 感覚知覚の客観的評価の試み

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 認知神経生物学分野 泰羅 雅登

5. 普段の日常的多段階行為を続けるために：一人暮らしの認知症患者から学ぶ

札幌医科大学 医学部 リハビリテーション医学講座 石合 純夫

（概要）認知症患者の生活障害は当事者と介護者にとって基本的問題であるが、これまでは介護者の経験と勘で対応され、科学的対策という発想が乏しかった。科学的に対応するためには、生活機能障害の内容が認知症のステージや基礎疾患により異なることや、障害の成因と治療標的が認知・精神・身体機能に加えて環境であることを認識しなければならない。その上で、障害内容と要因を脳科学の次元で抽出・整理する必要がある。本シンポジウムでは、生活障害を科学として捉え、根拠に基づく支援技術の実際について議論する。

シンポジウム 9 「認知症の終末期医療」

10月28日（日） 13時10分～15時10分（第1会場 2F 大ホール）

オーガナイザー：大内 尉義（東京大学大学院医学系研究科 加齢医学講座）

飯島 節（筑波大学大学院 人間総合科学研究科

生涯発達科学専攻）

1. 認知症の終末期をどう捉えるか—死生学の立場から

東京大学 大学院人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター 清水 哲郎

2. 地域基幹病院における看取りの実態—認知症の在宅神経疾患患者の水分栄養管理—

JA とりで総合医療センター 神経内科 新谷 周三

3. 認知症患者の看取りをどうするか

医療法人社団充会 上川病院 吉岡 充

4. PEG の適応を考える

国際医療福祉大学病院外科 鈴木 裕

5. 認知症の終末期医療に関するわが国のガイドライン

筑波大学大学院 人間総合科学研究科 生涯発達科学専攻 飯島 節

（概要）超高齢化社会を迎えた日本では、高齢者の終末期医療が問題となっている。いたづらに命を引き延ばすよりも、その人らしい尊厳のある終末期を迎えたいという意識が強まる一方で、胃瘻などの処置の進歩により以前より命を長らえることが可能となっている。特に認知症患者では、医療処置に際して本人の意思がどこまで反映されているかが問題となる。さらに、終末期医療は、生物学的側面以外に、死生観、尊厳、宗教などの個別性の高い問題を含み、複雑である。本シンポジウムでは、認知症患者の終末期医療およびケアに関する実態と意識の変化を踏まえ、実情に即した認知症の終末期医療とは何かについて議論する。

シンポジウム 10 「認知症と自動車運転」

10月28日（日） 13時10分～15時10分（第3会場 3F 中ホール）

オーガナイザー：堀川 悦夫（佐賀大学 医学部 地域医療科学教育研究センター

認知神経心理学分野）

岩本 邦弘（名古屋大学大学院 医学系研究科

発達・老年精神医学分野）

1. 高齢者自動車運転と認知機能・認知症についての諸問題

佐賀大学医学部地域医療科学教育研究センター 認知神経心理学分野 堀川 悦夫

2. 向精神薬の運転への影響

名古屋大学大学院 医学系研究科 発達・老年精神医学分野 岩本 邦弘

3. 高齢者の運転と認知機能

名古屋大学大学院医学系研究科 精神医学分野 河野 直子

4. 地域における認知症高齢者の運転と事故

高知大学医学部精神科 上村 直人

（概要）近年、認知症ドライバーや認知機能が低下した高齢ドライバーによる自動車事故が増加しており、深刻な社会問題となっている。その対応策として、2002年の道交法改正において認知症が一定の免許制限を受けることが明文化され、2009年から75歳以上の免許更新者に対する認知機能検査制度が導入された。しかしながら、認知機能低下が自動車運転にどのような影響を与えるのか、認知機能が低下したヒトの運転適性をどのように評価するか、また運転を中止した高齢者のモビリティをどのようにして維持していくべきか、など課題は山積している。本シンポジウムでは、認知機能障害の観点から自動車運転に関する種々の問題について議論する。

シンポジウム 11 「わが国において継続中の認知症疫学研究」

10月28日（日） 13時10分～15時10分（第4会場 2F 中ホール）

オーガナイザー：清原 裕（九州大学 医学研究院 環境医学分野）

池田 学（熊本大学大学院生命科学研究部 神経精神医学）

1. 久山町研究—生活習慣病と認知症—

九州大学大学院医学研究院 精神病態医学 小原 知之

2. 大山町・海士町研究—ADとVaDの有病率の時代変化—

鳥取大学 医学部 脳神経医科学講座 脳神経内科学分野 和田 健二

3. 利根町研究—MCIと認知症—

筑波大学医学医療系精神医学 久永 明人

4. 宮城県北部地域（栗原市・大崎市田尻）研究—介護保険指標ならびに血管病変の問題—

東北大学大学院医学系研究科 高齢者高次脳医学 目黒 謙一

5. 中島町研究：認知症早期発見・予防プロジェクト（なかじまプロジェクト）

金沢大学大学院脳老化・神経病態学（神経内科学） 山田 正仁

（概要）最新の厚労省データは、認知症の患者数が300万以上に達したと報じている。しかし介護保険の主治医意見書をもとに算出されたこの数字以上に、実数は多いのではないかという意見もある。わが国の認知症疫学に関する従来の研究は、単発的、小規模、参加率の低さという欠点があった。しかし有名な久山研究を始めとして、10年以上に亘る縦断的で大規模な疫学調査も全国各地で進行中である。こうした調査の現状と今後の展望を紹介する。

【トピックス徹底討論】

トピックス徹底討論 「抗 Aβ 療法の最新現状と徹底討論」

10月28日(日) 9時00分～12時00分 (第4会場 2F 中ホール)

オーガナイザー: 大河内正康 (大阪大学大学院医学系研究科 精神医学教室)

入江 一浩 (京都大学大学院農学研究科 食品生物学専攻)

食品生命科学講座)

1. β セクレターゼ阻害薬
東京大学医学部附属病院 早期・探索開発推進室 福元 宏明
2. γ セクレターゼ抑制薬
東京大学大学院 薬学系研究科 臨床薬学教室 富田 泰輔
3. γ セクレターゼ修飾薬のアルツハイマー病予防薬としての理論と実際
大阪大学大学院 医学系研究科 精神医学教室 大河内正康
4. ポリフェノールによるアミロイドβ の凝集阻害機構
京都大学大学院農学研究科 食品生物学専攻食品生命科学講座 入江 一浩
5. 免疫療法
弘前大学大学院医学研究科脳神経内科学講座 松原 悦朗

(概要) Aβ を悪玉としてそれを脳内から消し去るあるいは減少させることでアルツハイマー病の治療になるという考え方が20世紀の終わりころから現れ、様々な戦略で実際の臨床治験が行われる段階にまで発展している。しかし、重要なことに精緻な論理の上に成り立っているこれらの治療法がまだ臨床応用されていない。この理由は何か? 「白蟻の被害を受けた家」のようにアルツハイマー病は何の具体的症状もないままどんどん進行し、臨床症状が出てきた時にはその病理はかなり不可逆的な終末に近づいていると考えられる。病気の仕組みを解明しそれを阻害する分子創薬に基づく薬剤はこのような病気の治療薬となりうるのだろうか? あるいは、一般的な感覚での予防薬としての開発を強く意識せねばならないのだろうか?

また最近、Aβ を過剰に発現するアルツハイマー病モデルマウスで効果的な薬剤が臨床治験に失敗する例が増えてきている。この理由は何か。アルツハイマー病の治療として抗Aβ療法は不適切なのだろうか? あるいはこれらの薬剤が改善したモデルマウスでの認知機能低下は果たしてアルツハイマー病患者の認知機能低下を反映したものであるだろうか?

この討論会では現在の抗Aβ療法の状況についていくつかの戦略に分けて数人の先生方にお話しいただき、最後に1時間程度の討論の時間をとり、会場の皆様も含めてブレインストーミングのようなことができれば、我々自身も含めて頭の中が整理できるのではないかと考えている。

【学会奨励賞候補演題口演】

学会奨励賞候補演題口演

10月26日(金) 9時00分～12時00分 (第6会場 2F 201)

座長: 荒井 啓行 (東北大学加齢医学研究所加齢老年医学研究分野)

秋山 治彦 (公益財団法人東京都医学総合研究所)

認知症・高次脳機能研究分野 認知症プロジェクト)

1. sortilin が Aβ 重合体の神経毒性発現を制御している (一般 206)
弘前大学大学院医学研究科脳神経内科学講座 松原 悦朗
2. Aβ 蓄積規定因子 Kinesin Light Chain 1 スプライシングバリエーションの同定 (一般 077)
大阪大学 精神医学教室 森原 剛史
3. 新規 APP ノックインマウスの作製と応用 (一般 096)
理化学研究所 脳科学総合研究センター 斉藤 貴志

4. α シヌクレイン線維の脳内接種は野生型マウス脳にレビー小体様病理を形成させる (一般 092)
東京都医学総合研究所 認知症プロジェクト 鈴掛 (増田) 雅美
5. Intron 変異を有する新規 FTDP-17 モデルマウスの作製と解析 (一般 099)
大阪市立大学大学院 医学研究科 脳神経科学 梅田 知宙
6. 中年期から老年期に精神障害を初発した 52 剖検例における神経変性基盤 (一般 022)
岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 精神神経病態学 長尾 茂人
7. 糖尿病性認知症の提唱 (一般 028)
東京医科大学 老年病科 羽生 春夫
8. 若年性認知症を呈する白質脳症: HDLS 患者の *CSF1R* 変異, MRI 所見, 臨床像, 病理像の検討 (一般 024)
新潟大学 脳研究所 神経内科 今野 卓哉
9. 全脳および脳局所のアミロイド蓄積における APOE2 の影響 (一般 179)
東京都健康長寿医療センター研究所 羽田 栄輔
10. パーキンソン病患者における認知機能と REM 睡眠行動異常症に関する多施設共同研究 (一般 030)
慶應義塾大学 医学部 神経内科 関 守信

(概要) これまで一般演題はポスター発表に限られていた。しかし多くの秀逸な研究報告がよせられる本学会では、スライド等を多く用いた講演形式で傾聴したいという希望が寄せられてきた。そこで事前審査でとくに優秀と評価された基礎と臨床部門の合計 10 題について講演をしていただく場を設定した。

【共催企画】

モーニングセミナー 1 老年期の妄想: 認知症の妄想と遅延性パラフレニー

10月27日(土) 9時00分~9時50分 (第2会場 1F 大会議室 101+102)

座長: 田平 武 (順天堂大学大学院医学研究科 認知症診断・予防・治療学講座/
医療法人カワムラヤスオメディカルソサエティ河村病院

認知症診断・予防・治療センター)

吉岡リハビリテーションクリニック 宇野 正威

共催: 日本イーライリリー株式会社

モーニングセミナー 2 脳血流画像からみる DLB の診断と臨床症状

10月27日(土) 9時00分~9時50分 (第3会場 3F 中ホール)

座長: 織茂 智之 (公立学校共済組合 関東中央病院 神経内科)

滋賀県立成人病センター老年内科 長濱 康弘

共催: 日本脳神経核医学研究会/日本メジフィジックス株式会社

モーニングセミナー 3 てんかんと認知症 — 認知障害発作の診断 —

10月27日(土) 9時00分~9時50分 (第4会場 2F 中ホール)

座長: 市川 忠彦 (目白大学 人間学部人間福祉学科)

国立精神・神経医療研究センター病院 てんかんセンター (脳神経外科) 大槻 泰介

共催: 大日本住友製薬株式会社

モーニングセミナー 4 Lewy 小体病を深く知る

10月28日(日) 9時00分～9時50分 (第6会場 2F 201)

座長: 小阪 憲司 (メディカルケアコート・クリニック)

1. Lewy 小体病の心臓交感神経変性

公立学校共済組合関東中央病院 神経内科 織茂 智之

2. Lewy 小体病における核医学画像診断の標準化

金沢大学附属病院 核医学診療科 中嶋 憲一

共催: 日本脳神経核医学研究会/富士フィルム RI ファーマ株式会社

ランチョンセミナー 1 アルツハイマー病の根本治療薬開発の山に挑戦

10月26日(金) 12時10分～13時00分 (第1会場 2F 大ホール)

座長: 森 啓 (大阪市立大学大学院医学研究科 脳神経科学)

同志社大学脳科学研究科 神経疾患研究センター 杉本 八郎

共催: エーザイ株式会社/ファイザー株式会社

ランチョンセミナー 2 睡眠学: 最近の進歩

10月26日(金) 12時10分～13時00分 (第2会場 1F 大会議室 101+102)

座長: 清水 徹男 (秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座)

公益財団法人精神・神経科学振興財団 高橋 清久

共催: 武田薬品工業株式会社

ランチョンセミナー 3 あなたの施設は安全ですか?

～災害から身を守り, 安全に避難するための基礎知識～

10月26日(金) 12時10分～13時00分 (第3会場 3F 中ホール)

座長: 高橋 祥友 (筑波大学医学医療系災害精神支援学)

社会医療法人財団池友会 福岡和白病院 救急部 富岡 譲二

共催: 小野薬品工業株式会社

ランチョンセミナー 4 「身体にやさしくバランスを考慮した」BPSD の薬物療法

10月26日(金) 12時10分～13時00分 (第4会場 2F 中ホール)

座長: 長田 乾 (秋田県立脳血管研究センター 神経内科学研究部)

けいめい記念病院 物忘れ外来・脳神経外科 岡原 一徳

共催: 株式会社ツムラ

ランチョンセミナー 5 認知症のうつ・介護者のうつ

10月26日(金) 12時10分～13時00分 (第6会場 2F 201)

座長: 片山 禎夫 (川崎医科大学神経内科学教室)

愛媛大学大学院医学系研究科 脳とこころの医学 谷向 知

共催: 持田製薬株式会社/田辺三菱製薬株式会社/吉富薬品株式会社

ランチョンセミナー 6 知的障害者の認知症について

10月27日(土) 12時10分～13時00分 (第2会場 1F 大会議室 101+102)

座長: 天野 直二 (信州大学医学部精神医学講座)

国立障害者リハビリテーションセンター病院 臨床研究開発部/
同研究所 発達障害情報・支援センター 深津 玲子

共催: ノバルティス ファーマ株式会社

ランチョンセミナー 7 アルツハイマー病と生活習慣病

10月27日(土) 12時10分～13時00分 (第3会場 3F 中ホール)

座長: 玉岡 晃 (筑波大学医学医療系神経内科学)

秋田県立脳血管研究センター 神経内科学研究部 長田 乾

共催: ヤンセンファーマ株式会社/武田薬品工業株式会社

ランチョンセミナー 8 BPSD に対する治療戦略

10月27日(土) 12時10分～13時00分 (第4会場 2F 中ホール)

座長: 田平 武 (順天堂大学大学院医学研究科認知症診断・予防・治療学講座/
医療法人カワムラヤスオメディカルソサエティ河村病院

認知症診断・予防・治療センター)

独立行政法人国立病院機構 菊池病院 臨床研究部 木村 武実

共催: 株式会社グロービア

ランチョンセミナー 9 認知症診療における脳画像検査の活用

10月28日(日) 12時10分～13時00分 (第1会場 2F 大ホール)

座長: 新井 平伊 (順天堂大学大学院医学研究科 精神・行動科学)

東京医科大学 老年病科 羽生 春夫

共催: 第一三共株式会社

ランチョンセミナー 10 認知機能の隙から見る手品

10月28日(日) 12時10分～13時00分 (第3会場 3F 中ホール)

座長: 金澤 一郎 (国際医療福祉大学大学院)

国立精神・神経医療研究センター病院 松崎 朝樹

共催: ファイザー株式会社

ランチョンセミナー 11 認知症とうつ病の脳内共通基盤

10月28日(日) 12時10分～13時00分 (第4会場 2F 中ホール)

座長: 木村 真人 (日本医科大学千葉北総病院 メンタルヘルス科)

公益財団法人 東京都医学総合研究所 統合失語症・うつ病プロジェクト うつ病研究室 楯林 義孝

共催: 塩野義製薬株式会社

【一般演題】

一般演題 1 「認知症全般（介護，社会，高齢）①」

10月26日（金） 17時00分～17時30分（第5会場（ポスター①） 1F 多目的ホール）

座長：片山 禎夫（川崎医科大学 神経内科）

- 001 過活動膀胱治療薬イミダフェナシン長期投与の認知機能への影響
東邦大学 医療センター 佐倉病院 内科学 神経内科 榊原 隆次
- 002 グループホーム在住認知症患者の口腔状態変化へ環境因子が与える影響
株式会社オルトメディコ 鈴木 直子
- 003 認知症介護スタッフの服薬介助困難感と剤型選択 第二報 勤務背景の違いによる検討
札幌医科大学 医学部 神経内科 齊藤 正樹
- 004 総合病院における認知症身体合併症入院治療—当院での経験
独立行政法人国立長寿医療研究センター 服部 英幸
- 005 認知症疾患に伴う身体合併症 —誤嚥性肺炎に対する腹臥位療法の効果—
医療法人 実風会 新生病院 宮軒 将
- 006 認知症診療における栄養管理の重要性—著しく改善を認めた症例の経験から—
名古屋市立東部医療センター 神経内科 山田健太郎

一般演題 2 「認知症全般（介護，社会，高齢）②」

10月26日（金） 17時30分～18時00分（第5会場（ポスター①） 1F 多目的ホール）

座長：北村 真希（石川県立高松病院）

- 007 総合病院での「認知症外来」の現状 —はたして、経済的に成立し得るか？—
総合上飯田第一病院 老年精神科 鶴飼 克行
- 008 措置入院となった認知症高齢者4例
横浜市立大学附属市民総合医療センター 精神医療センター，
横浜市立大学医学部 精神医学教室 岡村 泰
- 009 高度認知症に伴う嚥下障害の対応に関する医学部学生の意識
東京大学医学部附属病院 老年病科 山口 潔
- 010 虐待を受けた認知症患者の特性について
石川県立高松病院 北村 真希
- 011 認知症高齢者のライフスタイル—性差による検討
埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーション科 大沢 愛子
- 012 演題取り下げ

一般演題 3 「認知症全般（検査，鑑別診断）①」

10月26日（金） 17時00分～17時20分（第5会場（ポスター②） 1F 多目的ホール）

座長：金高 秀和（東京医科大学病院 老年病科）

- 013 同一症例にVSRAD advance と plus で解析した結果の違い
小牧市民病院 脳神経外科 飯塚 宏

- 014 3D-MRI 画像と SPM DARTEL 解析ツールによる認知症の鑑別
東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター 神経内科 大本 周作
- 015 障害物回避行動にみとめる認知症患者の fNIRS による脳血流量分布の検討
杏林大学 もの忘れセンター 中居 龍平
- 016 11C-PIB PET を用いた特発性正常圧水頭症とアルツハイマー病の合併に関する研究
独立行政法人国立長寿医療研究センター認知症先進医療開発センター脳機能画像診断開発部 文堂 昌彦

一般演題 4 「認知症全般（検査，鑑別診断）②」

10月26日（金） 17時20分～17時45分（第5会場（ポスター②） 1F 多目的ホール）

座長：谷口美也子（鳥取大学 医学部 生体制御学）

- 017 もの忘れ外来患者におけるてんかん性異常の検討
九州大学大学院 医学研究院 神経内科学 重藤 寛史
- 018 高齢者による臨床場面での言語流暢性の性差について ～HDS-R と FAB を用いての検討～
東京都健康長寿医療センター 高齢者ブレインバンクプロジェクト 小幡 真希
- 019 iPad 版認知機能検査 CADi の開発と妥当性検証
島根大学医学部神経内科 青山 淳夫
- 020 物忘れスピード問診票の開発
船橋市立医療センター 脳神経外科 唐澤 秀治
- 021 「物忘れスピード問診票」を用いた前向き調査
やすまクリニック 安間 芳秀

一般演題 5 「その他の変性疾患（画像，病理，病態）」

10月26日（金） 17時00分～17時25分（第5会場（ポスター③） 1F 多目的ホール）

座長：新井 哲明（筑波大学医学医療系臨床医学域 精神医学）

- 022 中年期から老年期に精神障害を初発した 52 剖検例における神経変性基盤
岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 精神神経病態学 長尾 茂人
- 023 老年期発症の幻覚妄想を認め、辺縁系に高度タウ病変を呈した 3 剖検例
東京都医学総合研究所 認知症プロジェクト 河上 緒
- 024 若年性認知症を呈する白質脳症：HDLS 患者の CSF1R 変異，MRI 所見，臨床像，病理像の検討
新潟大学 脳研究所 神経内科 今野 卓哉
- 025 神経軸索スフェロイドを伴う遺伝性白質脳症（HDLS）の 2 家系 3 症例の検討
信州大学 医学部 脳神経内科，リウマチ・膠原病内科 木下 通亨
- 026 Alfa-Synuclein pathology of ALS/PDC in the Kii Peninsula, Japan
三重大学 医学部 小久保康昌

一般演題 6 「その他の変性疾患（臨床症状）」

10月26日（金） 17時25分～17時50分（第5会場（ポスター③） 1F 多目的ホール）

座長：和田 健二（鳥取大学 医学部 脳神経医科学講座 脳神経内科学分野）

- 027 タッチパネル式簡易認知症スクリーニング検査のパーキンソン病患者での有用性

- 岡山大学 医学部 神経内科 倉田 智子
- 028 糖尿病性認知症の提唱
- 東京医科大学 老年病科 羽生 春夫
- 029 リバスタチグミンによる原発性進行性失語治療の試み
- 神戸大学 医学部 神経内科学／分子脳科学 古和 久朋
- 030 パーキンソン病患者における認知機能と REM 睡眠行動異常症に関する多施設共同研究
- 慶應義塾大学 医学部 神経内科 関 守信
- 031 遺伝性脊髄小脳変性症 7 型における認知機能の検討
- 順天堂大学附属順天堂東京江東高齢者医療センター 脳神経内科 北見真喜子

一般演題 7 「レビー小体型認知症①」

10月26日(金) 17時00分～17時20分(第5会場(ポスター④) 1F 多目的ホール)

座長: 高橋 晶(筑波大学 医学医療系 臨床医学域 精神医学)

- 032 レビー小体型認知症(DLB)の初発症状としての失語
- 昭和大学 横浜市北部病院 内科神経 福井 俊哉
- 033 レビー小体型認知症のうつ症状に対するエスタプラムとメマンチン併用による効果
- 愛命会 泉原病院 池田 賢作
- 034 レビー小体型認知症(DLB)の早期の臨床的特徴
- 国立病院機構 大牟田病院 神経内科 渡邊 暁博
- 035 レビー小体型認知症患者に 8Fr 経鼻栄養チューブを使用した摂食・嚥下治療の提案
- 東京都健康長寿医療センター 神経内科 砂川 昌子

一般演題 8 「レビー小体型認知症②」

10月26日(金) 17時20分～17時40分(第5会場(ポスター④) 1F 多目的ホール)

座長: 福井 俊哉(昭和大学 横浜市北部病院 内科神経)

- 036 Parkinson 病の認知機能障害を MMSE と MoCA により評価した多施設共同研究
- 国家公務員共済組合連合会 立川病院 神経内科 太田 晃一
- 037 レビー小体型認知症に対する塩酸メマンチンの臨床効果と脳血流変化
- 大田市立病院 神経内科 岡田 和悟
- 038 レビー小体型認知症におけるテロメア長と酸化ストレスの検討
- 東京医科大学 老年病科 久米 一誠
- 039 レビー小体型認知症とパーキンソン病における延髄の α シヌクレイン陽性構造の比較検討
- 筑波大学 医学医療系 臨床医学域 精神医学 高橋 晶

一般演題 9 「認知症全般(早期診断, MCI)」

10月26日(金) 17時40分～17時55分(第5会場(ポスター④) 1F 多目的ホール)

座長: 岡田 和悟(大田市立病院 神経内科)

- 040 認知症スクリーニングテストと画像所見が乖離した症例
- 久留米大学 医学部 神経精神医学講座 鎌田 裕之

- 041 HDS-R21 点以上の症例の認知症診断と治療
国立病院機構甲府病院 脳神経外科 長沼 博文
- 042 自覚的記憶障害 (SMI) に影響を与える要因の検討
金沢大学 大学院 脳老化・神経病態学 柚木 颯悠

一般演題 10 「アルツハイマー病 (予防, 治療) ①」

10月26日 (金) 17時00分～17時30分 (第5会場 (ポスター⑤) 1F 多目的ホール)

座長: 櫻井 博文 (東京医科大学病院 老年病科)

- 043 当院におけるメマンチンの使用経験
済生会横浜市東部病院 脳神経センター 脳血管・神経内科 村松 和浩
- 044 メマンチンの中核症状に対する治療効果 ～BPSD タイプ分類による効果比較～
榎本内科クリニック 榎本 睦郎
- 045 当院におけるメマンチンの使用経験
刈谷豊田総合病院 神経内科 菱川 望
- 046 メマンチン服用前後での認知機能検査結果の検討
関西医科大学 精神神経科学教室 越川 陽介
- 047 当院におけるアルツハイマー型認知症患者に対するドネペジルとメマンチンの併用効果
長崎大学医歯薬学総合研究科・感染分子解析学 佐藤 克也
- 048 アルツハイマー病のメマンチン治療に伴う眠気の検討
医療法人 柏葉会 柏戸病院 神経内科 柏戸 孝一

一般演題 11 「アルツハイマー病 (予防, 治療) ②」

10月26日 (金) 17時30分～18時00分 (第5会場 (ポスター⑤) 1F 多目的ホール)

座長: 合馬 慎二 (福岡大学 医学部 神経内科)

- 049 高齢者における複数の抗酸化物質の同時摂取による認知機能の改善
奈良県立医科大学 医学部 精神医学講座 安野 史彦
- 050 アルツハイマー病治療薬の剤型に関する調査
名古屋大学附属病院 老年内科 梅垣 宏行
- 051 AChE 阻害薬の治療効果に対する血管危険因子の影響
秋田県立脳血管研究センター神経内科学研究部 山崎 貴史
- 052 Ferulic acid・Angelica archangelica 抽出物の糖・脂質代謝に与える影響
独立行政法人国立病院機構 菊池病院 臨床研究部 木村 武実
- 053 アルツハイマー型認知症患者に対するIVIg療法の短期及び長期効果の検討
京都府立医科大学 分子脳病態解析学 徳田 隆彦
- 054 外来通院の認知症患者に対する写字療法の提案
宇治川病院 脳神経外科 河本 圭司

一般演題 12 「アルツハイマー病（バイオマーカー）①」

10月26日（金） 17時00分～17時30分（第5会場（ポスター⑥） 1F 多目的ホール）

座長：池田 将樹（群馬大学 医学部 神経内科）

- 055 無服薬の物忘れ外来初診時症例の血清抗コリン活性
東京都立東部療育センター 薬剤部 小西 公子
- 056 Urinary Homocysteic Acid Levels Correlate with MMSE score in AD Patients
佐賀大学 医学部 社会医学 長谷川 亨
- 057 脳脊髄液中のアミロイド β 1-42, 総タウ, リン酸化タウの測定; J-ADNI 研究
バイオテクノロジー開発技術研究組合 月江 珠緒
- 058 アミロイド蛋白とブドウ糖代謝の PET バイオマーカーによる prodromal AD
湘南厚木病院 神経科 畑下 鎮男
- 059 アルツハイマー病における赤血球膜プラズマローゲンと認知症スケールの相関
福岡大学 医学部 神経内科 合馬 慎二
- 060 うつ病から認知症への transition を考える：血漿ホモシステインと認知機能
山梨大学 医学部 精神科 玉置 寿男

一般演題 13 「アルツハイマー病（バイオマーカー）②」

10月26日（金） 17時30分～17時55分（第5会場（ポスター⑥） 1F 多目的ホール）

座長：富所 康志（筑波大学 医学医療系 神経内科）

- 061 アミロイド前駆体蛋白遺伝子導入マウスを用いたアミロイド β 蓄積への $[^{11}\text{C}]\text{PIB}$ 結合評価
独立行政法人放射線医学総合研究所 分子イメージング研究センター 関 千江
- 062 Hirano 小体における SMURF1 の発現について
群馬大学 医学部 附属病院 神経内科 牧岡 幸樹
- 063 Evaluation of β amyloid and α synuclein based on disease-specific iPS cells
慶應義塾大学 医学部 神経内科 八木 拓也
- 064 ヒト脳脊髄液中 APL1 β ペプチドの高感度定量
大阪大学大学院 医学系研究科 精神医学 児玉 高志
- 065 野生型 Bri ペプチド N-末端は DPP4 によって切断される
筑波大学 医学医療系 神経内科 富所 康志

一般演題 14 「アルツハイマー病（画像）①」

10月26日（金） 17時00分～17時25分（第5会場（ポスター⑦） 1F 多目的ホール）

座長：井門ゆかり（メープルヒル病院 広島県西部認知症疾患医療センター）

- 066 健常者での APOE ϵ 4 保因者と非保因者の MRI による縦断的評価; J-ADNI 研究
国立精神・神経医療研究センター 脳病態統合イメージングセンター 松田 博史
- 067 J-ADNI 被験者の登録時区分による FDG-PET の比較
国立長寿医療研究センター 脳機能画像診断開発部 藤原 謙
- 068 健忘型 MCI における認知予備能と認知機能低下, 脳糖代謝, 局所脳萎縮に関する検討
国立長寿医療研究センター脳機能診断画像開発部 加藤 隆司

- 069 認知症の多施設共同研究をサポートする「ネット画像カンファレンスシステム」の開発
国立長寿医療研究センター 脳機能画像診断開発部 中村 昭範
- 070 前頭前野 A β 蓄積は Alzheimer 病患者のアパシーに関連する
放射線医学総合研究所 分子イメージング研究センター 島田 斉

一般演題 15 「アルツハイマー病 (画像) ②」

10月26日 (金) 17時25分～17時50分 (第5会場 (ポスター⑦)) 1F 多目的ホール)

座長: 藁谷 正明 (松戸市立福祉医療センター東松戸病院 神経内科)

- 071 SDAT における糖尿病・高脂血症による脳血流低下および認知機能低下への修飾について
川口工業総合病院 神経内科 松本 卓
- 072 アルツハイマー型認知症における微小出血性病変の SWI による検討
山口大学 大学院 医学系研究科 神経内科 川井 元晴
- 073 Alzheimer 病患者では糖尿病を合併すると海馬傍回の萎縮が促進する
東京医科大学病院 老年病科 金高 秀和
- 074 2型糖尿病患者における海馬および海馬傍回の萎縮に関する検討
国家公務員共済組合横浜栄共済病院 代謝内分泌内科 山田 昌代
- 075 大脳皮質下病変の局在と老年症候群との関連
国立長寿医療研究センター もの忘れセンター 大釜 典子

一般演題 16 「A β , APP ①」

10月26日 (金) 17時00分～17時25分 (第5会場 (ポスター⑧)) 1F 多目的ホール)

座長: 木下 彩栄 (京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻)

- 076 家族性アルツハイマー病に共通する A β 関連蛋白の産生・代謝過程の検討
京都府立医科大学 神経内科学 大島 洋一
- 077 A β 蓄積規定因子 Kinesin Light Chain 1 スプライシングバリエーションの同定
大阪大学 精神医学教室 森原 剛史
- 078 銅は APP ダイマー化を強め、A β 産生を促進する
京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻 野田 泰葉
- 079 血管内皮障害をモニターするための可溶性アミロイド β 前駆体タンパク質 770
理化学研究所 疾患糖鎖研究チーム 北爪しのぶ
- 080 オプトジェネティクスを用いた神経活動依存的な A β 分泌・蓄積の検討
東京大学大学院 薬学系研究科 臨床薬学教室 山本 薫

一般演題 17 「A β , APP ②」

10月26日 (金) 17時25分～17時50分 (第5会場 (ポスター⑧)) 1F 多目的ホール)

座長: 富山 貴美 (大阪市立大学大学院医学研究科 老年医科学大講座 脳神経科学)

- 081 低分子量 G タンパク質 Rab2A, Rab30 による A β 産生・分泌調節機構の解析
東京大学 医学部 医学科 福島 正哉
- 082 γ セクレターゼの基質認識機序に基づく基質特異的 A β 産生阻害

- 同志社大学 生命医科学部 神経病理学 舟本 聡
- 083 Early deposition of A β 43 in APP transgenic mouse brain
- 岩手医科大学 薬学部 神経科学講座 鄒 鶴
- 084 ラフトの γ セクレターゼによる APP 膜内段階的切断機構
- 北海道大学 大学院薬学研究院 神経病理・病態生化学 (IBL) 松村 展敬
- 085 アミロイドオリゴマー結合アプタマーの A β オリゴマーに対する認識特異性
- 東京農工大学大学院 工学府 生命工学専攻 塚越かおり

一般演題 18 「tau ①」

10月26日(金) 17時00分～17時15分(第5会場(ポスター⑨) 1F 多目的ホール)

座長: 宮坂 知宏(同志社大学 生命医科学部 神経病理学)

- 086 タウオパチーモデルマウスにおけるタウの凝集とカルパイン活性の関係について
- 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 精神神経病態学教室 大島 悦子
- 087 HDAC 制御によるタウ代謝機構の解析
- 長寿研 CAMD アルツハイマー病分子病態・治療開発プロジェクトチーム 吉池 裕二
- 088 A β により生じるタウリン酸化はインスリン依存性 Akt-GSK3 β シグナル障害が関連する
- 新潟大学脳研究所神経内科 徳武 孝允

一般演題 19 「tau ②」

10月26日(金) 17時15分～17時30分(第5会場(ポスター⑨) 1F 多目的ホール)

座長: 長谷川成人(財団法人東京都医学総合研究所 認知症プロジェクト

病態細胞生物学研究室)

- 089 タウオパチー発症機構における MAP2 の関与
- 同志社大学 生命医科学部 神経病理学 謝 策
- 090 ホモシステインによるカスパーゼ活性化を介するタウ蛋白重合促進機序の解明
- 福井大学 医学部 第二内科 白藤 法道
- 091 Pioglitazone のタウ蛋白リン酸化・重合に及ぼす影響
- 福井大学 医学部 第二内科 濱野 忠則

一般演題 20 「TDP-43, synuclein」

10月26日(金) 17時30分～17時40分(第5会場(ポスター⑨) 1F 多目的ホール)

座長: 永井 義隆(国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 疾病研究第四部)

- 092 α シヌクレイン線維の脳内接種は野生型マウス脳にレビー小体様病理を形成させる
- 東京都医学総合研究所 認知症プロジェクト 鈴掛(増田) 雅美
- 093 シード依存的な細胞内 TDP-43 蓄積による細胞死の誘導
- 東京都医学総合研究所 認知症プロジェクト 野中 隆

一般演題 21 「病態モデル動物①」

10月26日(金) 17時00分～17時20分(第5会場(ポスター⑩) 1F 多目的ホール)

座長: 斉藤 貴志(理化学研究所 脳科学総合研究センター)

- 094 加齢に伴うカニクイザル脳 γ セクレターゼ活性の修飾: A β 42 産生比の増加
滋賀医科大学 分子神経科学研究センター 西村 正樹
- 095 高脂血症カニクイザルを用いた A β 病態の検索
医薬基盤研究所霊長類医学研究センター 岡林 佐知
座長: 西村 正樹(滋賀医科大学 分子神経科学研究センター)
- 096 新規 APP ノックインマウスの作製と応用
理化学研究所 脳科学総合研究センター 斉藤 貴志
- 097 アミロイド β オリゴマーの形成と空間記憶障害における細胞質 SOD の役割
京都大学 農学研究科 食品生物科学専攻 村上 一馬

一般演題 22 「病態モデル動物②」

10月26日(金) 17時20分～17時40分(第5会場(ポスター⑩) 1F 多目的ホール)

座長: 里 直行(大阪大学大学院 医学系研究科 臨床遺伝子治療学講座)

- 098 老齡サル神経細胞にみる4リピート選択的タウ沈着
東京都医学総合研究所 脳病理形態研究室 内原 俊記
- 099 Intron 変異を有する新規 FTDP-17 モデルマウスの作製と解析
大阪市立大学大学院 医学研究科 脳神経科学 梅田 知宙
座長: 内原 俊記(東京都医学総合研究所 脳病理形態研究室)
- 100 糖尿病は APP トランスジェニック・マウス脳においてタウのリン酸化を促進する
大阪大学大学院 医学系研究科 臨床遺伝子治療学講座 里 直行
- 101 ショウジョウバエを用いた家族性 ALS 原因遺伝子 FUS による神経変性機構の解析
東京大学大学院 薬学系研究科 臨床薬学教室 功刀 隼人

一般演題 23 「病態モデル動物③」

10月26日(金) 17時40分～18時00分(第5会場(ポスター⑩) 1F 多目的ホール)

座長: 道川 誠(名古屋市立大学大学院医学研究科病態生化学)

- 102 リバスタチンがアルツハイマー病モデルマウスに及ぼす記憶改善効果
広島大学 大学院 総合科学研究科 行動科学講座 岡田 佳奈
- 103 認知症を呈する老化促進マウス SAMP8 に対するメマンチンの効果に関する検討
東京大学大学院 医学系研究科 加齢医学講座 大田 秀隆
- 104 アルツハイマー病モデルマウスにおけるスタチンの抗炎症効果についての検討
岡山大学 医学部 神経内科 倉田 智子
- 105 運動は食事制限よりも高脂肪食によるアルツハイマー病症状の悪化を改善する
京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学 前迫 真人

一般演題 24 「アルツハイマー病 (症例報告)」

10月27日(土) 16時00分～16時25分(第5会場(ポスター①)) 1F 多目的ホール)

座長: 山口 潔(東京大学医学部附属病院 老年病科)

- 106 進行性核上性麻痺と診断されていた Alzheimer 病の 1 例
順天堂東京江東高齢者医療センター PET-CT 認知症研究センター 眞鍋 雄太
- 107 進行性失語症と考えられる症例の認知機能, 脳脊髄液および神経放射線学的検討
群馬大学 医学部 神経内科 池田 将樹
- 108 リバスタチン貼付剤により ChEI 治療が可能となった 2 例
社会福祉法人 浴風会 浴風会病院 精神科 古田 伸夫
- 109 メマンチンで悪化しドネペジルで改善した, アルツハイマー型認知症と考えられる 1 例
医療法人ウイング ストレスクリニックウイング 川口 哲
- 110 薬物治療に難渋した認知症のせん妄に高照度光療法が効果を示した一例
桶狭間病院藤田こころケアセンター 関口 裕孝

一般演題 25 「その他の変性疾患 (症例報告)」

10月27日(土) 16時25分～16時50分(第5会場(ポスター①)) 1F 多目的ホール)

座長: 中居 龍平(杏林大学医学部附属病院 もの忘れセンター)

- 111 緘黙で気づかれた Logopenic Progressive Aphasia (LPA) の一例
沖縄県立中部病院 親富祖勝己
- 112 PiB 陽性であった Corticobasal syndrome の一例
大阪市立大学 医学部 老年内科・神経内科 武田 景敏
- 113 物忘れて発症した視神経脊髄炎の女性例
国立病院機構徳島病院 神経内科 乾 俊夫
- 114 急速進行性の認知症を呈し, 脳生検で A β , tau, α -synuclein の蓄積を認めた一例
信州大学 医学部 脳神経内科, リウマチ・膠原病内科 中村 卓也
- 115 老健の認知症高齢者 PEG 離脱の試み—最近経験した 3 例から—
介護老人保健施設 和光園 岡田 慶一

一般演題 26 「認知症全般 (介護, 社会, 高齢) ③」

10月27日(土) 16時00分～16時35分(第5会場(ポスター②)) 1F 多目的ホール)

座長: 武田 章敬(独立行政法人 国立長寿医療研究センター もの忘れセンター)

- 116 高齢化地域の神経内科専門診療所における認知症疾患の初診時年齢・重症度に関する検討
微風会三次神経内科クリニック花の里 織田 雅也
- 117 認知症は良くなるか? 老健施設における MMSE の追跡調査と日常生活動作の変化について
介護老人保健施設 スターホーム 中島 義治
- 118 認知症介護者教室における介護負担に関連する因子
東京医科大学病院 老年病科 櫻井 博文
- 119 認知症における身体疾患の特性と介護負担～切れ目のない認知症診療を目指して～
独立行政法人 国立長寿医療研究センター もの忘れセンター 神谷 正樹

- 120 施設に入所している認知症高齢者の生活の質
信州大学医学部保健学科 埴原 秋児
- 121 レビー小体型認知症と前頭側頭型認知症における介護負担の検討
医療法人微風会 浜寺病院 深田 亮介
- 122 介護支援専門員の認知症に伴う精神行動障害（BPSD）・せん妄に対する対応能力について
医療法人 慈全会 那須高原病院 大野 篤志

一般演題 27 「認知症全般（地域連携）」

10月27日（土） 16時35分～17時00分（第5会場（ポスター②） 1F 多目的ホール）

座長：服部 英幸（独立行政法人国立長寿医療研究センター）

- 123 認知症診療ケアにおける千葉県認知症連携パス試案
医療法人社団弥生会 旭神経内科リハビリテーション病院 旭 俊臣
- 124 千葉市認知症疾患医療センター開設後の現状と地域医療ネットワーク構築および問題点
千葉大学 医学部 附属病院 神経内科 平野 成樹
- 125 認知症の人を地域包括ケアに包摂するための現在の水準と実践への道筋
京都大学 医学部附属病院 老年内科 武地 一
- 126 地域の事業所の日常業務における認知症に関する困りごと調査
独立行政法人 国立長寿医療研究センター もの忘れセンター 武田 章敬
- 127 認知症疾患医療センターシステムの利点と地域連携の変化
メープルヒル病院 広島県西部認知症疾患医療センター 井門ゆかり

一般演題 28 「正常圧水頭症」

10月27日（土） 16時00分～16時25分（第5会場（ポスター③） 1F 多目的ホール）

座長：長沼 博文（国立病院機構甲府病院 脳神経外科）

- 128 髄液検査によりアルツハイマー型認知症の合併が強く疑われた正常圧水頭症の4例
菊池中央病院 脳神経外科 曾山 直宏
- 129 特発性正常圧水頭症における DESH の客観的画像評価としての VSRAD の有用性
総合高津中央病院 脳神経外科 御任 明利
- 130 特発性正常圧水頭症認知症患者に対するリバスチグミンの治療効果
順天堂大学大学院 医学研究科 脳神経外科学 中島 円
- 131 水頭症は treatable dementia?
高崎総合医療センター 神経内科 金井 光康
- 132 血管性認知症に特発性正常圧水頭症を併発しシャント術の奏功した一例
東京医科大学茨城医療センター 脳神経外科 大賀 優

一般演題 29 「血管性認知症」

10月27日(土) 16時25分～16時50分(第5会場(ポスター③) 1F 多目的ホール)

座長: 重藤 寛史(九州大学大学院 医学研究院 神経内科学)

- 133 CADASILにおける脳卒中危険因子の検討
京都府立医科大学神経内科 水野 敏樹
- 134 血管性認知症とアルツハイマー病との鑑別および co-morbidity に関する検討
国立長寿医療研究センター 脳機能診療部 新畑 豊
- 135 CADASILにおける脳血流および脳梗塞再発の予測について
京都府立医科大学 神経内科 濱野 愛
- 136 前頭葉機能と局所脳血流: 内頸動脈狭窄症における検討
埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーション科 大沢 愛子
- 137 脳アミロイドアンギオパチー関連炎症の臨床的多様性: 画像所見, APOE, 血中抗Aβ抗体
新潟大学脳研究所神経内科 須貝 章弘

一般演題 30 「認知症全般(臨床症状, BPSD)」

10月27日(土) 16時00分～16時25分(第5会場(ポスター④) 1F 多目的ホール)

座長: 山口 晴保(群馬大学 大学院 保健学研究科)

- 138 物忘れ外来における介護者ケアおよび BPSD に対するメマンチンの位置づけ
榊原白鳳病院 笠間 睦
- 139 認知症に伴う行動・心理症状(BPSD)に対するトピラメートの有効性
医療法人更生会 草津病院 精神科 倉田 明子
- 140 精神科領域における memantine の臨床的意義について—9症例の知見から—
愛知医科大学 精神科学講座 深津 孝英
- 141 認知症初期症状 13 質問票 SED13Q による認知症検出と認知症病識 12 ペア質問票 ADP12Q の開発
群馬大学 大学院 保健学研究科 山口 晴保
- 142 物盗られ妄想を呈した症例の臨床的特徴
福井大学 医学部附属病院 神経内科 上野亜佐子

一般演題 31 「アルツハイマー病(疫学)」

10月27日(土) 16時25分～16時50分(第5会場(ポスター④) 1F 多目的ホール)

座長: 古川 勝敏(東北大学加齢医学研究所老年医学分野)

- 143 動脈硬化因子のアルツハイマー病発症への関与と発現時期について
東京女子医科大学 附属成人医学センター 松村美由起
- 144 高齢者における認知機能と骨代謝との関連性
島根大学 医学部 医学科 生理学講座 橋本 道男
座長: 橋本 道男(島根大学 医学部 医学科 生理学講座)
- 145 東日本大震災被災者における認知症症状の変化
東北大学加齢医学研究所老年医学分野 古川 勝敏
- 146 地域疫学調査における認知症スクリーニング検査

- 鳥取大学 医学部 脳神経医科学講座 脳神経内科学分野 和田 健二
 147 有酸素運動が健常高齢者の灰白質容積にもたらす影響—地域縦断コホート研究から
 筑波大学 大学院 人間総合科学研究科 田村 昌士

一般演題 32 「アルツハイマー病（臨床症状）①」

10月27日（土） 16時00分～16時30分（第5会場（ポスター⑤） 1F 多目的ホール）

座長：古和 久朋（神戸大学 医学部 神経内科学／分子脳科学）

- 148 アルツハイマー型認知症患者における自律神経機能と記憶力障害の関係
 名古屋大学医学部附属病院 地域在宅医療学・老年科学 野々垣 禪
- 149 若年性アルツハイマー病と晩発性アルツハイマー病における認知機能障害の年次変化
 熊本大学大学院医学教育部 神経精神科学分野 田中 響
- 150 小血管性脳梗塞病変を伴うアルツハイマー病の臨床的特徴の検討
 住友病院 神経内科 當間圭一郎
- 151 大脳白質病変と抑うつ・アパシーとの関連
 名古屋大学大学院 医学系研究科 地域在宅医療学・老年科学 牧野多恵子
- 152 アルツハイマー型認知症患者に動脈硬化因子が及ぼす影響についての臨床的検討
 国立病院機構 岡山医療センター 神経内科 真邊 泰宏
- 153 末期肝硬変に対する肝移植術前後の認知機能変化
 豊田厚生病院 神経内科 石原 哲郎

一般演題 33 「アルツハイマー病（臨床症状）②」

10月27日（土） 16時30分～16時55分（第5会場（ポスター⑤） 1F 多目的ホール）

座長：柏戸 孝一（医療法人 柏葉会 柏戸病院 神経内科）

- 154 アルツハイマー病での「他者の行動意図理解」の評価：落とし穴課題（Pitfall task）
 群馬医療福祉大 リハビリテーション学部 山口 智晴
- 155 アルツハイマー病における運動機能の日常生活に与える影響の検討
 国立長寿医療研究センター脳機能診療部 辻本 昌史
- 156 アルツハイマー型認知症患者におけるキツネ・ハト模倣テストの検討
 新宮市立医療センター 神経内科 梶本 賀義
- 157 アルツハイマー病患者の入浴習慣と高次脳機能障害および抑うつ状態との関連について
 愛知医科大学 加齢医科学研究所 岩崎 靖
- 158 ビタミン B12 欠乏症に伴う認知機能障害 補充による認知機能，ホモシステイン値の改善
 福井大学 医学部 第二内科 榎本 崇一

一般演題 34 「アルツハイマー病（予防，治療）」

10月27日（土） 16時00分～16時35分（第5会場（ポスター⑥） 1F 多目的ホール）

座長：川畑 信也（八千代病院 神経内科）

- 159 ガランタミンは中等度 AD の BPSD 治療において第2世代抗精神病薬の減量中止を可能にする
 慈恵中央病院 精神科 小川 直志

- 160 アルツハイマー病に対するリバスチグミン効果 18 mg 増量前に認知症は悪化しないのか
八千代病院 神経内科 川畑 信也
- 161 アルツハイマー型認知症のアパシーに対するガランタミンの効果の検討
国家公務員共済組合連合会 三宿病院 神経内科 清塚 鉄人
- 162 アルツハイマー型認知症患者に対するリバスチグミンの効果の検討
川崎医科大学 神経内科 片山 禎夫
- 163 アルツハイマー型認知症に対するリバスチグミンパッチの使用経験
兵庫医科大学 精神科神経科学講座 宇和 典子
- 164 世代間交流による認知症治療ケア実践 16年～交流の進化および役割づくりの人材育成～
医療法人 創健会 ウエルネス医療クリニック 多湖 光宗
- 165 アルツハイマー型認知症におけるリバスチグミンとメマンチンの併用効果について
相模原協同病院 脳神経センター 杉谷 雅人

一般演題 35 「アルツハイマー病 (バイオマーカー) ③」

10月27日(土) 16時35分～17時05分(第5会場(ポスター⑥)) 1F 多目的ホール)

座長: 赤津 裕康 (医療法人さわらび会福祉村病院)

- 166 脳脊髄液・血液診断マーカーとしての p3-A β の解析
北海道大学 大学院薬学研究院 羽田沙緒里
- 167 アルツハイマー病における抗 Derlin-1 抗体による検討
京都大学大学院 医学研究科 薬剤疫学分野 本城 靖之
- 168 アルツハイマー病における血漿蛋白結合型アクトレインと血漿 A β 40/42 比の診断的意義
松戸市立福祉医療センター東松戸病院 神経内科 藁谷 正明
- 169 ヒト鼻粘膜・嗅球における A β 解析と診断の可能性
医療法人さわらび会福祉村病院 赤津 裕康
- 170 アルツハイマー型認知症における血液中新規糖タンパクの糖鎖変化
鳥取大学 医学部 生体制御学 谷口美也子
- 171 神経変性疾患における脳脊髄液のアミロイド β およびリン酸化タウの検討
鳥取大学 医学部 脳神経内科 中下 聡子

一般演題 36 「アルツハイマー病 (画像) ③」

10月27日(土) 16時00分～16時30分(第5会場(ポスター⑦)) 1F 多目的ホール)

座長: 金谷 潔史 (東京医科大学八王子医療センター 老年病科)

- 172 詳細な神経心理学的検査による, 前臨床期のアルツハイマー病検出の可能性
国立長寿医療研究センター 脳機能画像診断開発部 加藤 公子
- 173 アルツハイマー型認知症患者の妄想と脳萎縮の関連性について—VSRAD advance を用いて—
大阪市立大学 大学院医学研究科 神経精神医学 田川 亮
- 174 軽度アルツハイマー病患者の TMT-A と脳血流画像の関連性
岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 精神神経病態学 進藤 亜紀
- 175 文字流暢性課題と意味流暢性課題の成績にかかわる脳の機能局在の探究

- 滋賀医科大学 MR 医学総合研究センター 椎野 顯彦
 176 自己組織化マップに基づく MCI 患者の脳糖代謝分布パターンの分類
 京都大学大学院医学研究科 脳機能総合研究センター 大石 直也
 177 各種認知症治療薬の脳血流量に与える影響について—SPM8 を用いた検討—
 東京医科大学八王子医療センター 老年病科 金谷 潔史

一般演題 37 「アルツハイマー病 (画像) ④」

10月27日(土) 16時30分~16時55分 (第5会場 (ポスター⑦) 1F 多目的ホール)

座長: 松田 博史(国立精神・神経医療研究センター 脳病態統合イメージングセンター)

- 178 aMCI から AD への converter では両側海馬の NAA 濃度低下がより著明である—1H-MRS を用いて
 宇治武田病院 神経内科 渡辺 俊之
 179 全脳および脳局所のアミロイド蓄積における APOE2 の影響
 東京都健康長寿医療センター研究所 羽田 栄輔
 180 臨床現場での VSRAD plus[®] から VSRAD advance[®] への切り替えのメリットと注意点
 せんば東京高輪病院 神経内科 津本 学
 181 Default mode network の functional connectivity と局所脳糖代謝との相関
 国立長寿医療研究センター 脳機能画像診断開発部 岩田 香織
 182 アルツハイマー病における内側側頭部の萎縮: VSRAD advance を用いた左右差の検討
 新潟大学 脳研究所 神経内科 手塚 敏之

一般演題 38 「A β , APP ③」

10月27日(土) 16時00分~16時25分 (第5会場 (ポスター⑧) 1F 多目的ホール)

座長: 鈴木 利治(北海道大学大学院薬学研究院 神経科学研究室)

- 183 スタチンによるアミロイド β 蛋白産生抑制のメカニズムの検討
 筑波大学 医学医療系 神経内科学 保坂 愛
 184 A β 42 の“毒性コンホマー”形成による細胞内酸化ストレスの誘導
 京都大学大学院 薬学研究科 泉尾 直孝
 185 APP Osaka (E693 Δ) 変異は A β による細胞内コレステロールの輸送・排出を阻害する
 大阪市立大学大学院 医学研究科 脳神経科学 野村 幸子
 186 アストログリア細胞における加齢性エンドサイトーシス障害
 医薬基盤研究所 霊長類医科学研究センター 木村 展之
 187 アストロサイトから放出される IGFBP が関与するアルツハイマー病の病態生理
 京都大学院 医学部 臨床神経学 渡邊 究

一般演題 39 「新規関連遺伝子」

10月27日(土) 16時25分~16時35分 (第5会場 (ポスター⑧) 1F 多目的ホール)

座長: 桑野 良三(新潟大学脳研究所 遺伝子機能解析学分野)

- 188 アルツハイマー病と SORL1 の関連解析
 新潟大学 脳研究所 遺伝子機能解析学分野 宮下 哲典

- 189 日本人 75 例 (FTLD, PSP, CBS) における MAPT, PGRN および C9orf72 の遺伝子解析
順天堂大学認知症診断・予防・治療学講座 本井ゆみ子

一般演題 40 「presenilin, ApoE ①」

10月27日(土) 16時00分~16時20分(第5会場(ポスター⑨) 1F 多目的ホール)

座長: 大河内正康(大阪大学大学院医学系研究科 精神医学教室)

- 190 γ セクレターゼ活性低下による神経突起末端部におけるグングリオシド量の増加
国立長寿医療研究センター 認知症先進医療開発センター 治療薬探索研究部 及川 尚人
- 191 γ -secretase 活性中心サブユニット Presenilin 1 の第4膜貫通領域の構造解析
東京大学 薬学系研究科 臨床薬学教室 富永 綾
- 192 PICALM がアルツハイマー病の病態形成に寄与する分子機構の解明
東京大学大学院薬学系研究科 臨床薬学教室 金津 邦彦
- 193 An Effect of *PSEN1* with I143T Mutation on Amyloid β Production
東京医科歯科大学大学院脳神経病態学 三條 伸夫

一般演題 41 「presenilin, ApoE ②」

10月27日(土) 16時20分~16時40分(第5会場(ポスター⑨) 1F 多目的ホール)

座長: 富田 泰輔(東京大学大学院薬学系研究科 薬学部)

生命薬学専攻医療薬学講座臨床薬学教室)

- 194 APL2 β の産生メカニズムの解析 (1) APLP2 はプレセニリン 1 と 2 で異なる切断を受ける
大阪大学大学院 医学系研究科 内科系臨床医学専攻 情報統合医学講座 精神医学分野 柳田 寛太
- 195 APL2 β の産生メカニズムの解析 (2) APL2 β はネプリライシンで切断される
大阪大学大学院 医学系研究科 内科系臨床医学専攻 情報統合医学講座 精神医学分野 柳田 寛太
- 196 APP CTF と PS1 の融合蛋白を用いた A β 産生機構の解析
大阪大学大学院 医学系研究科 臨床遺伝子治療学講座 里 直行
- 197 リポタンパク受容体 LR11 による ApoE 産生代謝調節機構の解析
新潟大 脳研 神内 矢島 隆二

一般演題 42 「病態モデル動物④」

10月27日(土) 16時00分~16時20分(第5会場(ポスター⑩) 1F 多目的ホール)

座長: 渡邊 淳(独立行政法人 国立長寿医療研究センター 研究所)

- 198 変異型 Notch3 ノックインマウスの生化学的解析
独立行政法人 国立長寿医療研究センター 研究所 渡邊 淳
- 199 脳卒中易発症高血圧ラット (SHR-SP) におけるシロスタゾールの多面的効果の検討
岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 脳神経内科学 表 芳夫
- 200 マウス慢性脳低灌流モデルの認知機能障害および白質病変に対するニフェジピンの効果
神戸大学大学院医学研究科神経内科 鷺田 和夫
- 201 PQBP1 遺伝子発現量と症状の相関関係
東京医科歯科大学 難治疾患研究所 神経病理学分野 田村 拓也

一般演題 43 「治療薬開発①」

10月27日(土) 16時20分～16時40分(第5会場(ポスター⑩) 1F 多目的ホール)

座長: 大八木保政(九州大学 医学部 神経内科)

- 202 フェノール化合物は特異的結合によってA β オリゴマー形成とシナプス毒性を抑制する
金沢大学大学院 脳老化・神経病態学(神経内科) 小野賢二郎
- 203 新しいレドックス型ポリマードラッグによるアルツハイマー型障害治療
筑波大学 数理物質 長崎 幸夫
座長: 小野賢二郎(金沢大学大学院 脳老化・神経病態学(神経内科))
- 204 ADマウスにおけるアポモルフィンおよびリチウム治療とその作用機序の解析
九州大学 医学部 神経内科 大八木保政
- 205 イソフラボンの β アミロイド蛋白モノマー・オリゴマー・線維への作用の検討
金沢大学院 脳老化・神経病態学(神経内科) 廣畑 美枝

一般演題 44 「治療薬開発②」

10月27日(土) 16時40分～17時00分(第5会場(ポスター⑩) 1F 多目的ホール)

座長: 福永 浩司(東北大学大学院 薬学研究科 薬理学分野)

- 206 sortilin がA β 重合体の神経毒性発現を制御している
弘前大学大学院医学研究科脳神経内科学講座 松原 悦朗
- 207 副腎皮質ステロイド治療による脳血管アミロイド退縮機序のプロテオミクス解析
公益財団法人東京都医学総合研究所 認知症・高次脳機能研究分野 亀谷富由樹
座長: 松原 悦朗(弘前大学大学院医学研究科脳神経内科学講座)
- 208 γ -Secretase modulator はきわめて限定的な効果しか示さない?!
同志社大学 脳科学研究科 認知記憶加齢部門 角田 伸人
- 209 新規アルツハイマー治療薬候補 ST101 の脳内作用機序
東北大学大学院 薬学研究科 薬理学分野 福永 浩司